

スペシャルオリンピックス日本・愛媛バドミントン地区競技会 2009

開 催 要 項

1. 大会名 2009年スペシャルオリンピックス日本・愛媛バドミントン地区競技会
2. 大会テーマ *うちこめスマッシュ！未来に向けて*
3. 開催日 2009年11月14日（土）、15日（日）
4. 開催場所 住友金属鉱山(株)別子事業所 別子体育館
新居浜市王子町2-5
Tel：0897-35-2843
5. 開催の目的 I 心のバリアフリー実現へ向けての発信
II 成果発表の機会の提供
III 可能性へのチャレンジ
6. 主催 スペシャルオリンピックス日本・愛媛 バドミントン競技会実行委員会
7. 後援 愛媛県、新居浜市、愛媛県教育委員会、新居浜市教育委員会
愛媛県バドミントン協会、新居浜市バドミントン協会
新居浜市社会福祉協議会
8. 実施競技 バドミントン
9. 実施種目 シングルス個人、個人技能競技
10. 参加資格
 - (1) アスリート
 - ① 2008年11月1日～2009年10月31日に、SON各地区組織（設立準備委員会を含む）が提供した参加競技のスポーツトレーニングプログラムに8週間8回以上参加した経験のある8歳（2009年10月31日現在）以上で、SOに登録していること。
 - ② 大会参加にふさわしい身体状況であること。
 - ③ 大会実行委員会が参加を認めた者。
 - (2) コーチ
 - ① SOの認定コーチであること。
 - ② 大会参加にふさわしい身体状況であること。
 - ③ 大会実行委員会が参加を認めた者。
 - (3) 補助コーチ
 - ① SON各地区組織（設立準備委員会を含む）が提供したスポーツトレーニングプログラムに参加した経験があること。
 - ② 大会参加にふさわしい身体状況であること。
 - ③ 大会実行委員会が参加を認めた者。

11. 参加種目数

1人のアスリートが参加できる種目は、1種目とする。

12. 招待地区

九州、中国・四国ブロックのSO地区組織

13. 参加予定人員

選手団 100人（アスリート80人、コーチ20人）

大会役員・スタッフ・ボランティア 100人

14. 大会スケジュール

11月14日（土）	13:30～14:30	受付
	15:00～18:00	デビジョニング
	19:00～	交流会（場所・参加費未定）

11月15日（日）	9:00～	受付 ※
	9:30～	開会式
	9:50～	競技開始
	14:50～	表彰式
	15:20～	閉会式

※個人技能競技に限り当日の受付も可。この場合、開会式後にデビジョニングを行う。

15. 競技規則と競技上の注意

(1) 競技規則

本大会は、公式スペシャルオリンピックススポーツルール総則（2008年1月改訂版）、バドミントンルールブック（2008年1月改定版）、及び各競技の国際競技団体規則最新版、国内競技団体競技規則最新版に沿って行う。ただし、本競技会に関するルールを定めた場合はそれが優先する。

(2) 服装について

日本バドミントン協会認定のウェア、またはバドミントン競技に適切な襟付きのウェア
また、事前に指定のゼッケンを背中に付けること。
シューズは、裏があめゴム（黒ゴムは不可）

(3) ゼッケンについて（案）

- ① 白地の布（タテ16cm×ヨコ22cm程度）を1枚準備する。
- ② 右記のように、地区名、氏名を記入しておく。
- ③ 背中に、4か所程度縫い付ける。（安全ピンは不可）

SON・〇〇（地区名） 〇〇 〇〇 （氏名はフルネームで）

(4) その他注意事項

- ① 競技者は、競技開始10分前までに受付をし、定められた場所に集合する。ゲーム開始時に到着していない選手は、失格とする。
- ② コーチ、ファミリー、観客が競技中の選手に技術的な指導をすることは禁止する。
- ③ やむを得ず会場を離れる場合は、受付に外出時間を申し出ること。
- ④ リザルト掲示後、15分以内にヘッドコーチのみ、所定の用紙に必要事項を記入し抗議できる。
- ⑤ 競技中は選手・競技役員・大会役員・許可を得た報道関係者以外の競技エリアへの立ち入りを禁止する。

16. 競技方法

(1) 個人技能競技

① 用具

シャトルは、日本バドミントン協会検定合格水鳥球を使用する。

② 実施種目

ア ハンドフィーディング

- ・使用シャトル数： 5個
- ・得点： 成功=1ポイント
- ・フィーダー（シャトルを出す人）は、手にシャトルを持ち、そのシャトルをダーツのようにアスリートへ向けて投げる。
- ・フィーダーが投げる場所は、アスリートに向かって以下の通りとする。
右下→右上→真上→左上→左下の順
- ・アスリートは飛んできたシャトルをラケットで打ち、1回打つごとに1ポイントとする。
- ・フィーダーとアスリートは、ネットを挟まずに向かい合って立ち、その距離は1mとする。

イ ラケットフィーディング（オーバーヘッドストローク）

- ・使用シャトル数： 5個
- ・得点： 成功=1ポイント
- ・フィーダーは、アスリートに向けてアンダーストロークを使い、高くシャトルを打ち上げる。
- ・フィーダーが投げる場所は、アスリートの利き手側の上とする。
- ・シャトルを1回打つごとに1ポイントとする。
- ・アスリートがシャトルを打った場合、またはシャトルを打てなかった場合、すぐに次のシャトルが投げられカウントを続ける。
- ・フィーダーとアスリートは、ネットを挟まずに向き合って立ち、その距離は3mとする。

ウ “UPs”-アップス

- ・制限時間： 30秒
- ・得点： 1回=1ポイント
- ・アスリートは、シャトルを繰り返し空中へ向けて打つ。
- ・30秒の間で、1回打ち上げるごとに1ポイントとする。
- ・シャトルが地面に落ちた場合は、アスリートが自ら拾い競技を続ける。

エ フォアハンドストローク

- ・使用シャトル数： 5個
- ・得点： 成功=1ポイント
- ・アスリートは、ネットから3m離れたところに立つ。
フィーダーはネットの反対側に立つ。
- ・フィーダーは、アンダーハンドサーブでアスリートのフォアハンド側へシャトルを打つ。打つ場所は以下の通りとする。
2個一下、3個一上
- ・アスリートは、5回の試技のうち、フォアハンドストロークで反対側（コーチ側）のシングルスコートにうまく打ち返せた回数により、ポイントが与えられる。1回成功するごとに1ポイントとする。

オ バックハンドストローク

- ・使用シャトル数： 5個
- ・得点： 成功=1ポイント
- ・フィーダーがアスリートのバックサイド側へシャトルを打つこと以外は、アスリートへのシャトルの出し方および得点基準は、フォアハンドストロークの要領が適用される。

カ サービス

- ・使用シャトル数： 5個
- ・得点： 成功=10ポイント
- ・アスリートは、どちらか一方のサービスコートからアンダーハンドサービスで5回のサービスの試技を行う。
- ・サービスが正しいサービスボックス（シングルス）内に入るごとに、10ポイントとする。
- ・サービスがサービスボックスから外れた場合は、0ポイントとする。

③ スコア

最終得点は6つの個人技能競技それぞれのスコアの合計により決められる。

(2) シングルス

① 用具

シャトルは、日本バドミントン協会検定合格水鳥球を使用する。

② スコア

21点先取の1ゲームで行う。

③ デビジョニング

予選のデビジョニングは、エントリー時に提出する個人技能競技のスコアを元に行う。

17. 参加申込み〆切

2009年8月31日（月）・・・当日消印有効

18. 参加費

SO アスリート・コーチ・ボランティア・・・各500円

◆大会事務局◆

スペシャルオリンピックス日本・愛媛

〒790-0004 愛媛県松山市大街道1丁目3-1 いよぎん南ビル3F

TEL : 090-5270-6778

E-mail : jimukyoku@son-e.com